

■佐田白茅 尊攘派志士，外交官。新政府命で朝鮮実態調査し，強硬な出兵意見書を提出した。

さだはくぼう

鼠小僧磔・1832= 久留米藩士佐田修平の長男として誕生。

大塩平八郎乱1837= 5歳：

天保改革始・1841= 9歳：

阿部正弘首座1845=13歳：

国定忠治磔・1850=18歳：

万次郎帰国・1852=20歳：\_江戸に遊学，昌平黌に学ぶ。

ペリー来航・1853=21歳：\_ペリー来航以後，

\_国事に奔走し，月照ら多くの勤王の士と交友を結び，

安政の大獄・1859=27歳：\_久留米藩校{明善堂}の寮長となる。

桜田門外変・1860=28歳：

8月18日政変 1863=31歳：

\*親兵を率い上京の間際，藩内佐幕派のために同志28人とともに幽囚されたが，中山忠光らの周旋で罪を許され，家老有馬監物に随行上京。下関応援のため砲台建造の朝命を受け，豊前小倉藩領大里に下り防備を固め，八月十八日の政変後，長州湯田にて西下の三条実美に会い天草募兵を依頼されたが志を得ず，帰藩して禁錮され，のちに家禄没収の上，士籍を剥奪された。

明治維新・1868=36歳：

戊辰戦争終・1869=37歳：

\*復籍，藩主有馬慶頼(頼威)に供奉して上京，軍務官判事試補，徴士に抜擢，摂泉防禦参謀を命ぜられる。\_被免帰藩したが，間もなく上京，朝鮮交際私議を太政官に建白，外務省判任出仕を命ぜられた。折しも新政府は懸案たる朝鮮国との修好問題を解決すべく，対馬藩主宗義達に命じ交渉中であつたが遅々として進捗せず，対馬と朝鮮との関係の実情調査を命じられ，森山茂・斎藤栄を伴い対馬に赴いて調査，

初の日刊新聞1870=38歳：

\*釜山の草梁倭館に到着，滞在20余日に及ぶも，特に局面打開の事実は得られず，帰国。対朝鮮出兵経略の強硬な意見書を提出した。外務大録，奏任出仕を命ぜられたが，

廃藩置県・1871=39歳：

\*辞官帰郷。

明治6年政変 1873=41歳：

佐賀の乱・1874=42歳：

\_上京，以後閑居して文筆に親しむ。

西南戦争・1877=45歳：

明治14年政変1881=49歳：

帝国大学始・1886=54歳：

帝国憲法発布1889=57歳：

晩年は史談会の幹事として活躍。朝鮮に赴いた当時の事情を自叙伝も含めて著作も行う。

日清戦争始・1894=62歳：

日清戦争終・1895=63歳：

日露戦争始・1904=72歳：

日露戦争終・1905=73歳：

韓国反日暴動1907=75歳：東京浅草の寓居で，\_病没した。